

**あなたは鬼になれますか？ なれなきゃ助からん。それが「命てんでんこ」さ。**

釜石市両石町の町内会良瀬戸元さんの話（BE-PAL2012 6月号記事から）

あなた（記者）みたいにおらに話を聞きにくる人たちみんなにこういつてるのさ。「鬼となる心がありますか？この心がなければ、あなたは助かりませんよ」命てんでんこの話さ。津波てんでんこ、って知ってるでしょ？ 命てんでんこ、と同じ言葉だ。

「津波てんでんこ」は平成2年に宮古で津波サミットがあって、パネルディスカッションがあった。そのときに子供の手を引かずに一目散に逃げた父親の話が出た。あとからなじられた父親は「なに、てんでんこさ」と言い訳をしたとき。この思い出話から、「津波」と「てんでんこ」がくっついて「津波てんでんこ」。

おらのところには、昔から「津波起きたら命てんでんこだ」と伝えられてきた。明治29年の三陸大津波、昭和8年の三陸大津波。家族を助けようとして、あるいは村人から助けを求められて、共倒れになったのさ。こうした体験を踏まえた、重要な教訓が「命てんでんこ」。だから、助けを求められても、ダメだ。助けしないで、走って逃げろ。助けたいと思うさ、近所の人だから。助けなければいけないさ、親だから子だから。だけど、親父であっても子であっても、てんでんこ。これが「鬼になれますか」だ。

この教訓は守らなければならね。釜石市で亡くなった（行方不明も含む）1047人のうちの65%が、家の中にいた、買い物の途中だった、避難のタイミングが遅れた、そんな人たちだ。そして1047人のうちの8割、これが50歳以上。本来ならば、早く逃げねといけない人たちだ。知らなかったのさ、津波を。知ってても砥めていたのさ。

両石町は、235戸、600人。町内会に入っていないのも入れたら、もつという。亡くなったのは43人。10人ぐらいかな、と思ってたんだけど。いったんは全員避難した。したけれども、防災無線があって、「津波は3m」だといった。なんだ3mか、その安心感が、何人かを帰宅させた。

10人だ、自分のクルマを取りに行ったのが。そうして第2波で、もっていかれた。全員、生まれから地元の人じゃなくて、お嬢さんお嫁さんに来た人、んで若い人たちだ。

この10名だけじゃなかったのさ。33人、明治にも昭和にも津波が来なかったところまで逃げたんだけどさ、やられました。まさか、明治昭和より大きいのが来るとは、思わなかった。おらの責任でもあるさ。強くダメだっていえばよかったんだけど、もっと上さ逃げろ、っていえばよかったんだけど、まさかこんなに大きな津波が来るとは。

今回は、ただならぬ地震だった。ぐらぐらって地震があって、こりゃ大きいぞ、津波がどれくらいの高さになるか、あとでわかるように棒を立てに海辺に行ったのさ。そんで、棧橋に腹ばいになって作業してた。んだ。棧橋に腹ばいになってたら、海が動いたのさ。水が沖に引いていった、すぐに。すぐに海の水が動くということは、震源地が近いということ、驚いた、ああ。これはいかん、と。津波は30分で来るのさ。

1年前にも大きい地震があった。2日前の3月9日にも地震があって、津波が来たのさ、1.2mだけどな。そのときも30分、明治も昭和も30分で来た。地震があって30分で津波来るから、最初の15分でみんなに「逃げれ-！」って呼びかけて、年寄りを外に連れだして歩かせて、あとの15分は自分が逃げる。最初の15分で探し出せない人はもう、捨てろ。捨てねと共倒れになる。

動けない寝たきりの人、75歳以上の人、糖尿病で目が見えない人、この人たちがどこに住んでるか、全部みんな知ってるさ。何回も何回も避難訓練してたから。

町内を12の班に分けて、班内で役割分担さ。軽トラックを持ってる者が、歩けない人を乗せて坂を

駆け上がる。自助共助公助、これに「近助」もつけたのさ、おらほの町内では。隣の家のやつが隣のやつを助けろ、って。津波が来るぞー、逃げろー、ってバイクで叫んで回ったね。

みんな「オッケ（OK）オッケ、やるって、逃げるって。大丈夫だから、おめも早く逃げろ」って。15分だど。15分たったら逃げないと間に合わね。死んでしまう。時間との戦い。自宅に帰ると思うな。あれこれ考えるな。15分で死ぬ。命てんでんこ。

「弱いモンは捨てておけ」というときもあるのさ。幼子は抱えて逃げろ。逃げたら、明日の糧を考えて戻ったりするな。姑とはいえ家族だからといって、鬼となれずに共倒れ。せっかくてんでんこで助かっても、世間の目に負けて死んでしまう。

「あんただけ助かって、おやじ様お姑様をなぜ殺したか」こんなこと本人の前でしゃべってどうするか。昔の教訓が身についていないから、こうしゃべるのさ。しゃべってはいけないことなのに、教訓が身についてないから、助かった生命を、もう一度殺してしまうのさ。

おらも実際に見た。ある男が、寝たきりの妻を見捨てたとなじられた。よくも見捨てられたな、お前ひとりで逃げて、妻はそんなときどう思ったかと。その男に、そういわれて返す言葉があるか？ 「てんでんこじゃ」いうても、心はおさまらんぞ。だから、鬼になれと。

その男に、97歳の先輩が勇気ある言葉をかけてくれた。「お前は何も悪くない。後を追うなよ」と